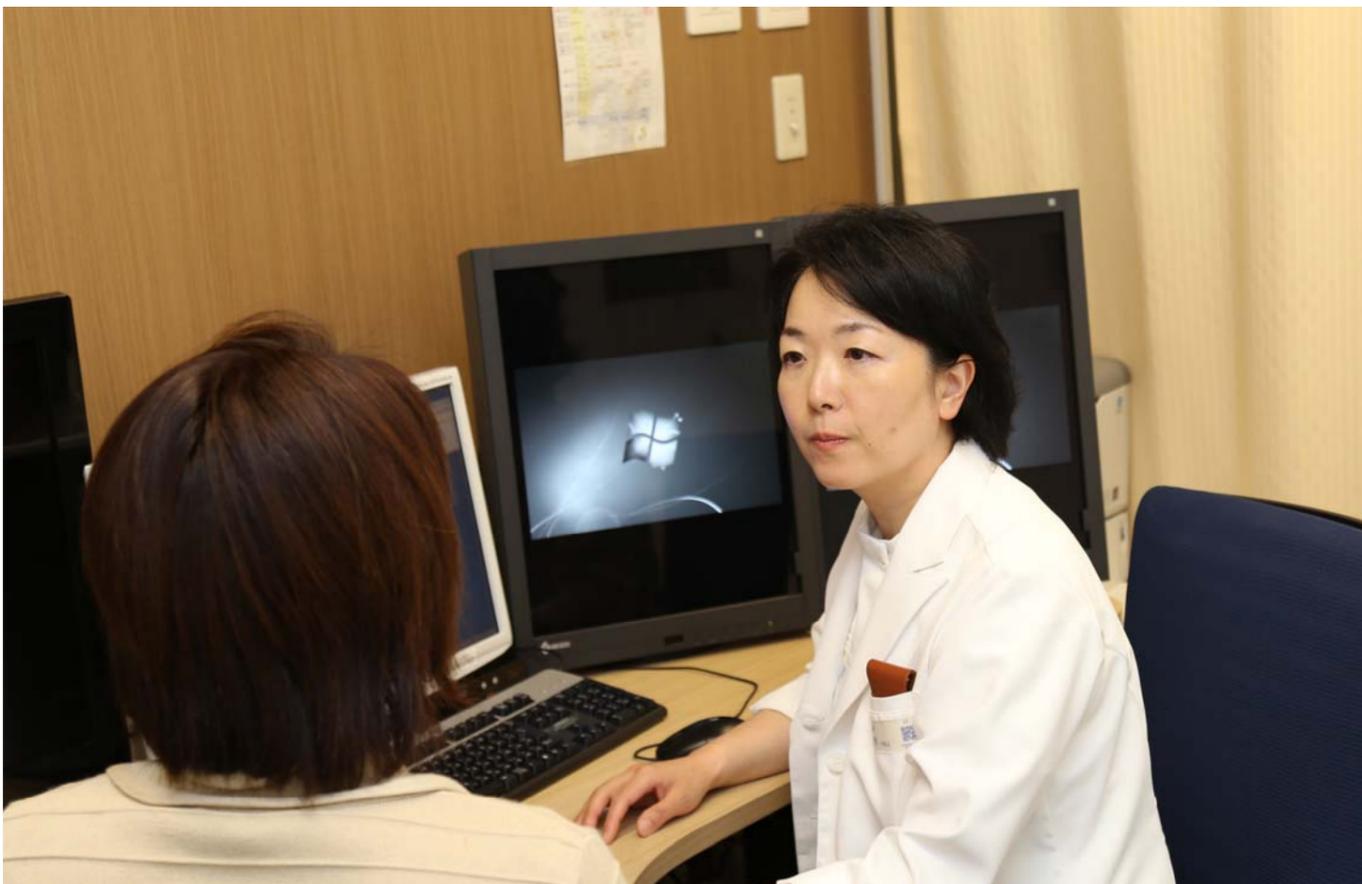


ChiKaRa

すずかけセントラル病院 広報誌

Vol. 11

特集 「乳腺・甲状腺について」



CONTENTS

防災について
新任医師に聞く
お知らせ・イベント情報

表紙の人 すずかけセントラル病院 乳腺・甲状腺科
鈴木 やすよ

木曜の午後『リウマチ外来』開設

担当医 影山 康徳

関節リウマチは特に関節内の滑膜組織が増殖して、関節破壊を引き起こす病気です。今まで関節破壊を抑えることは極めて困難でしたが、十数年ほど前より導入された生物学的製剤（TNF阻害剤、IL-6受容体抗体、T細胞の共刺激調節剤）や細胞内シグナル選択的阻害剤により、関節破壊の制御が可能となってきました。当科でもこれらの薬剤を積極的に使用して、患者さんの病状の軽減と日常生活の向上に努めております。

また既に関節破壊が進行し、疼痛が持続している患者さんに対しては、人工関節置換術（肩、肘、手指、股、膝、足関節、足）を行っております。リウマチに限らず関節痛でお悩みの患者さんは当科にご相談ください。

4階の病棟が変更されました

6月より4A病棟の回復期リハビリテーション病棟が60床に増床されました。急性期治療を終え、リハビリテーションが必要な患者さんに、早期の在宅復帰を目指したサービスを提供していきます。

また、4B病棟は、46床となりますが、医療依存度が高い、患者さんを積極的に受け入れる病棟として整えていきます。



『すずかけ杯ランドゴルフ大会』開催

5月28日に瓜内スポーツ広場にて「第2回すずかけセントラル病院杯争奪瓜内スポーツランドゴルフ大会」が開催されました。昨年同様、好天に恵まれ、総勢48名の方がハッラツとプレーされました。今後とも地域の皆様の健康増進活動に少しでも寄与できるよう、大会を継続していきます。次回は、病院スタッフも出場させていただき、交流を深めていきたいと思っております。



第10回すずかけグループ健康講座 開催

7月4日、クリエイト浜松2階ホールにて開催されました。今回は、「へいたみ」にスポットをあて、1部は当院顧問で麻酔科の佐藤重仁医師より「いろいろなへいたみ」の治療（健康長寿のために）、2部では、浜松医科大学リハビリテーション科教授の美津島 隆先生より「疼痛の緩和とリハビリテーション」についてお話していただきました。1部では、痛みの種類や、原因と治療の最新情報について、2部は主に理学療法によるリハビリテーションについてのお話でした。少し専門的な講演内容でしたが、約280名の聴講者はメモを取るなど熱心な様子で聞いていました。



シニアクラブ 新津地区連合会総会にて

健康講話

5月19日に開催された、シニアクラブ新津地区連合会総会では、鶴医師による健康講話が行われました。

「若さを保つ10か条」の紹介では、出席者の皆様から活発な質問があり、先生は笑いを誘う内容で回答していただきました。とても楽しい講演会となり、和やかな雰囲気の中で健康講話は終了となりました。



しずおか朝日テレビにて

すずかけセントラル病院特集が

放送されます。

8月15日（土）にすずかけセントラル病院の特集が放送されます。健診から乳がん、痛み外来など当院の特徴的な面を、取材いただきました。是非ご覧ください。

詳細 8月15日（土）

10時55分～11時25分

「大沼 啓延が体験！

すずかけの木陰の優しさをあなたへ

すずかけセントラル病院」

（文中全て予定）

すずかけセントラル病院

ふれあい祭 開催決定

今回で3回目となる、すずかけふれあい祭は、開院記念日の11月1日（日）に開催致します。

毎年多くの方にご喜ばれている無料検診チェックコーナーはもとより、皆様の健康について、気軽に話が出来る相談コーナーと、新たな企画も加え、より充実した内容を考えております。

是非とも多くの方にお越し頂き、ご自身の健康について考える日にして頂けると幸いです。

職員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

編集後記

今回は、乳腺・甲状腺科の鈴木先生に特集をご寄稿いただきました。今後も医師だけでなく、様々なスタッフにスポットをあてて特集していきたいと思っております。これからのChiKaRaにもご期待ください。

浜松市南区田尻町120-1

TEL : 053-443-0111 FAX : 053-443-0112

http://www.suzukake.or.jp

発行 すずかけセントラル病院 広報委員会

発行日 平成27年7月21日



乳腺・甲状腺について

この4月より乳腺甲状腺科を開設しました。当科は、患者さんを中心として院内の複数部門のスタッフと密に関わるチームを形成することで、より質の高い診療を実現しています。今回は外来診療を中心に、どんなことをしているのか、をご紹介します。

1 乳腺の診察

現在、日本女性は生涯で13人に1人が乳癌に罹患し、その好発年代は40〜50歳代、すなわち、働き盛りで社会やご家庭で最も必要とされる女性の年代です。また、女性乳癌の約1%の頻度で男性乳癌も存在します。症状の約90%は乳房のしこりですが、しこりを触れなければ病気は無い、というわけではありません。欧米では、乳癌罹患は増加し続けていますが、マンモグラフィを用いた乳癌検診を開始後、死亡率は明らかに低下しました。これは、診断技術や治療薬の進歩とともにマンモグラフィによって癌の早期発見が可能になったから、と考えられています。

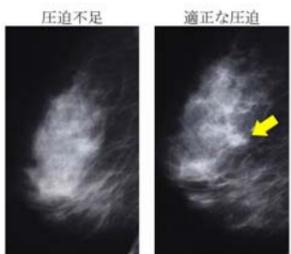


図1 圧迫の強弱によるマンモグラフィの写り方の違い

マンモグラフィは、他のレントゲンとは異なり、乳房を引っ張りだして圧迫しつつ極力薄く進展させて撮影をします。乳房内にできた癌のしこりと、正常乳腺はよく似た白さとして写り、その濃度差は非常にわずかです。濃度差を見やすくする技術として考案されたのが、マンモグラフィの撮影方法です。実際に圧迫の強さを変えて撮影してみると、不十分な圧迫では、あるはずの癌が見えにくくなってしまいます(図1)。痛みゼロの検査ではありませんが、撮影にはぜひご協力ください。

乳腺超音波検査(エコー)も大切な検査です。年代別のマンモグラフィを見ると若い方ほど乳房内に乳癌が密度高く残っており、全体が真っ白になってしまつて内部がわかりにくく、癌を見落としてしまう危険性が高いことがわかります(図2)。このような方には、さらに、エコー検査を追加することで的確に病変を確認することができますようになります(図3)。

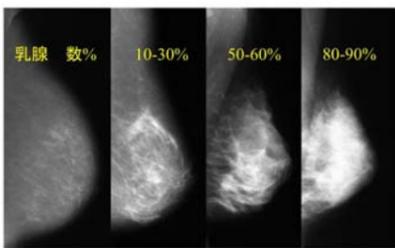


図2 年齢変化による、乳腺密度とマンモグラフィの変化

外来では問診、視触診に続いて、上記検査に所見があれば細胞や組織を採取して確認する検査(生検)を行いません。さらにMRI、CTなどを追加して詳細を調べていきます。

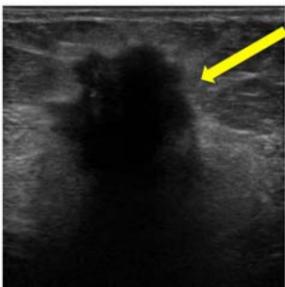


図3 乳腺超音波(エコー)：乳癌

2 甲状腺の診察

甲状腺とは、首の気管の前面にある蝶々のような形をした臓器です。甲状腺ホルモンという、全身に作用するホルモンを分泌しています。甲状腺ホルモンが分泌過剰の場合と、分泌低下の場合の症状をご覧ください(図4)。甲状腺ホルモンの働きとは全身を元気に活性化していること、とわかります。ただし、これらの症状は他疾患においても出現しますので、症状だけで甲状腺疾患と決めつける事はできません。

シンボル(象徴)としての防災艇

病院正面玄関の南側にオレンジ色の救命艇が設置されているのはご存じですか? 壁に衝突しても破損しない強度で、傾いたり転覆しても正位状態に戻る優れた物です。定員は成人22名。トイレも付いています。

この救命艇は、「すずかけふれあい祭」や「南区わくわく探検隊」など、機会がある度に地域のみなさんに見学をしていただいています。

平日昼間であれば見学可能ですので、興味のある方は事前にご連絡ください。

防災について

防災に対する備え

当院では、定期的に防災訓練を実施しています。過去には、神田・法枝・田尻町の各自治会の参加協力のもとで実施した訓練や、ヘリコプターで被災者の搬送訓練を行った東海ブロック合同訓練にも参加しました。

その他には、スモークハウスの中を避難する煙中避難訓練、起震車で震度7の揺れを体験、非常食の炊き出しなど、地震・津波・火災等あらゆる想定をして計画、訓練をしています。



津波避難ビル

街中を歩いていて「津波避難ビル」の表示を見たことがありますか?

被災者が一時的に生活する避難所とは異なり、津波から逃れるための緊急・一時的な避難場所ということなのです。地域住民だけでなく、たまたま近くにいた人も避難できます。



当院は、浜松市と協定を結び「津波避難ビル」の指定を受けています。近い将来起こりうる大地震、日頃から避難場所の確認や訓練を行っていきましょ

甲状腺の病気には2種類あります。一つ目はホルモン分泌量が異常増加、または低下する病気(機能異常:パセドウ病、橋本病など)、二つ目はしこりを形成する病気(腫瘍:良性腫瘍や癌など)です。

このため診断には採血検査と、頸部超音波検査(エコー)によるしこりの有無の確認が欠かせません。機能異常の場合、健康によかれと思って摂取されている健康食品やサプリメントが悪影響していることもありますので、詳細な問診も行ないます。さらに、細胞を採取して確認する検査(生検)、CTなどを追加することもあります。

3 受診案内

予約の無い初診の方も診察しますが、予約の方を優先に診察しておりますので若干の待ち時間が発生します。当院は近隣の医療機関とも密に連携しており、事前の診察予約やセカンドオピニオンも受付けております。ご希望の場合は、どうぞお問い合わせください。



筆者 鈴木 やすよ
すずかけセントラル病院
乳腺・甲状腺科

新任医師に聞く

総合診療科 高橋 毅 医師

総合診療科として幅広くみなさんの健康増進にお役に立てるように尽力します。専門は呼吸器外科ですので、外科治療が必要な疾患にも対応ができます。

趣味は、体力づくりを兼ね、学生の頃から水泳を頑張っています。ときどきレースにも参加しています。興味をお持ちの方、一緒にいかがですか? よろしくお願いたします。



ネパール地震について

病院長の鈴木一也は、以前よりネパールでの医療ボランティア活動に参加しております。今回起こった、ネパール地震の被災には心を痛め、院内に募金活動呼びかけました。皆様の厚意で、4万6827円(5月末日集計)の募金が集まりました。

このお金は、ブッタ基金を通じて、ネパールでの医療支援活動に使用されます。引き続き募金箱は設置してありますので、ご協力をお願いいたします。

	甲状腺ホルモン過剰状態	甲状腺ホルモン低下状態
精神・神経	いらいら、不眠	無気力、嗜眠
眼球・眼瞼	パセドウ病眼症	浮腫状
循環器	動悸、頻脈	徐脈、心拡大
皮膚	湿潤、多汗	乾燥、脱毛
四肢	手指振戦、ミオパシー	浮腫、ニューロパシー
体重・身長	やせ	肥満、低身長(小児期)
消化器	軟便、下痢	便秘
その他	暑がり、易疲労感	寒がり、声の嘎れ
	月経過少	月経過多

図3 甲状腺ホルモンによる症状